

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月29日

【評価実施概要】

事業所番号	4570102279		
法人名	社会福祉法人春生会		
事業所名	希望山荘		
所在地	宮崎県宮崎市郡司分乙1590番地1 (電 話) 0985-55-2006		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年7月15日	評価確定日	平成20年8月29日

【情報提供票より】（平成20年6月20日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成16年3月22日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤8人, 非常勤1人, 常勤換算9人	

（2）建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての ～1 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	30,000 円	その他の経費（月額）	実費 円
敷 金	有（ 円）	（無）	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 円） （無）	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 250 円	昼食 300 円	
	夕食 350 円	おやつ 100 円	
	または1日当たり 円		

（4）利用者の概要（平成20年6月20日現在）

利用者人数	9 名	男性 名	女性 9 名
要介護1	4	要介護2	3
要介護3	0	要介護4	2
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 86 歳	最低 70 歳	最高 93 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	山内ファミリクリニック、青山歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは小高い山に囲まれ、商店や公園も近くにある閑静な住宅街に立地し、敷地内には小規模多機能型居宅介護事業所が隣接している。玄関横には季節の野菜が植えられ、料理の食材となっている。毎日のミーティングで、利用者の安らぎのある暮らしを支援し、寄り添うケアや地域とのつながりを持つために全職員が理念を読み上げたり、情報等を共有している。利用者も穏やかな表情で過ごされておりメリハリのある生活がうかがえる。また、継続的な生活を支えるために、介護・医療等のマニュアルの作成がなされていて、諸記録も介護計画と連動しており努力の成果が見られる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 前回評価での改善課題は、全職員で検討がされている。チームでつくる利用者本意の介護計画は、作成を担当制に改善したため、利用者の状態を具体的に把握することができ、カンファレンスに出席してもやりがいある利用者本意の計画になったという職員の声が聞かれた。 今回の自己評価に対する取り組みの状況（関連項目：外部4） ① 自己評価をミーティング等で話し合い、評価作業の一連の過程を理解し、サービスの質の向上に取り組んでいる。さらに、運営者、管理者は全職員に評価の意義や生かし方を伝えていくことで、評価を生かした具体的な改善が期待できるという認識がある。
重点項目②	運営会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部資料4） 運営推進会議は2か月に1回、隣接の小規模多機能型居宅介護事業所と一緒に開催している。外部評価の結果報告や、事業所の現状と課題を説明し意見交換を行っている。この意見を参考に職員間で話し合うことで、ホームの行事等に家族や地域の方、民生委員等の参加が多くなっている。地域拠点としての活動展開とサービスの質の向上のための取り組みがなされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 運営推進会議に家族代表が出席し、自由に意見や苦情等が言える関係づくりができている。家族会はないが、玄関横に意見箱や自己評価を設置したり、遠方の家族には電話やFAX送信で意見交換がなされている。年に2回、第三者委員会を開催し苦情やその後の対応等を報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 同法人が以前より地元にあるため、地域住民の協力が得やすい。地域の行事に参加し、公民館祭りに事業所の様子を掲示したり、積極的に地域の会合に参加し交流に努めている。また、バーベキューやホームの諸行事には地域住民の協力や応援もある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は寄り添うケア、安心できる生活の継続を目指し、地域の中でその人らしい暮らしができ、地域とのつながりを生かしたサービスができるように努めたいという職員の思いが込められたものとなっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で勉強会を行って理念を作りあげた。毎日のミーティングで唱和し意識づけを行い、統一した対応を実践していることが管理者や職員からの聞き取りからもうかがえる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所や地域の会合、行事に参加し交流を行っている。公園やゲートボール会場、買い物や外食でいろいろな人達との会話を通して事業所の情報を伝えている。1人でホームから出られた利用者を、近所の方が送ってくださる等の協力も得られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果をミーティング等で話し合い、できることをすぐに取り組めば、職員間の意思疎通が良好になる等の相乗効果を得ている。さらに、運営者や管理者は評価の意義や生かし方を職員に伝えることで、具体的な改善が期待できるという認識がある。		

宮崎県宮崎市 グループホーム希望山荘

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2 か月に 1 回開催している。意見交換や情報交換を行い、意見をもとに職員間で話し合うことで各種行事に家族や地域の方、民生委員の参加を得ている。また、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。評価の結果についての報告や改善案も報告している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所とは電話や F A X 等を通して情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態をきめ細かに伝えている。また、家族からの要望も聞いている。ホーム便りは法人発行の広報誌を配布している。今後は割り付けを工夫した伝達しやすいものに挑戦していきたいという意欲がうかがえた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に 2 回、法人合同の第三者委員会を開催し、苦情やその後の対応などを報告している。相談や苦情処理は記録して、全職員に回覧し話し合いを行い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動等に関しては、管理者と職員が納得していただけるように家族や利用者に十分説明している。また、利用者の不安や不満への配慮を含めた対応が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修には多くの職員が受講できるように配慮されている。復命報告は勉強会等で実施されている。聞き取りにより、熱心に取り組む姿勢がうかがえた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入している。ネットワークづくりや勉強会、他施設との交流活動を通して良質なサービスの水準を確保し向上を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に必ず見学してもらい、安心と納得を大切にして信頼関係づくりに努めている。また、自宅や入院・入居(所)先に訪問することで、より信頼が深まるように心がけている。さらに家族の協力を仰ぎ、本人と家族に合った個別の利用開始を行っている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の意向をしっかりと受け止め、支援に努めている。また、人生の先輩である利用者から生活の技や文化を多く教えてもらえる場面作りに努めている。交流の場であるホールの壁にも協働作業で作られた折り紙の花が明るい雰囲気を漂わせていた。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	心に寄り添って、利用者の話をよく聞くケアを目指している。利用者の生活を支えるために、家族や本人から生活歴をできるだけ得られるように努め、利用者一人ひとりの日々の行動や表情から思いや意向を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	諸記録等は、日々の暮らしがチェックできるシンプルな様式作成がなされているので介護計画に連動しやすい。本人や家族の意向をきちんと聞いて納得してもらい、カンファレンスで職員の意見や知恵を出し合い、利用者一人ひとりに合った介護計画の作成がしてあることを確認できた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを実施し、状態が変化した時はケース記録に赤線を引く等、状態変化が適切に判断できる工夫がしてあり、一人ひとりのその時点に沿った介護計画が作成されている。本人や家族等とも話し合い、随時カンファレンスで情報の共有化を図り臨機応変な見直しがなされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況やその時々々の要望に応じて、通院介助、墓参り等の必要な支援を事業所の多機能性を生かして行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じた対応を行い、納得を得てから受診の支援を行っている。また、通院や訪問診療時の受診結果の報告は適切に行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に終末期の対応について家族に説明を行っているが、意志確認書の作成はなされていない。現在、近くの医療機関と終末期のあり方について前向きに検討している。	○	重度化や終末期に対する対応方針を家族、医師、看護師等を交えて話し合い、職員が共通認識を持ち、看取りの支援マニュアルを作成したり、近隣の医師と在宅療養の支援体制を整えることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの人格や誇りを損ねるような言葉掛けや対応がないように細心の注意を払っている。個人情報保護法の理解にも努め、本人や家族の了解を得た名前の呼び方、入室の際の声掛け、各記録の取り扱い等の確認と点検を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れ（時間、介護内容、利用者の行動及び状態）が記載された記録表に、利用者のペースを守るため、一人ひとりの生活のリズムと本人のしたいことや日常使う言葉を記載する等の工夫がなされている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に、食材調達、買い物、料理の下ごしらえ、後片づけを職員と一緒にしている。また、献立の希望等も聞き、利用者と職員が食卓を囲んで同じものを楽しく食べることが大切になっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に1日おきの入浴である。午前と午後のいずれかの希望に合わせた入浴をゆっくりと楽しんでもらっている。入浴拒否の利用者に対しては何回も職員が声掛けを行い、タイミングを合わせて入浴を勧める支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	安心して楽しく生活ができる暮らしを支援するために、一人ひとりの役割等をつくりだす職員の働きかけが見受けられた。1日2回のレクリエーションは職員主導で、縫い物、歌、掃除、食事作り等、利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのスーパーに買い物に行ったり、公園への散歩、ゲートボール見学、ドライブ等と希望に沿った外出支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族の承諾を得て、玄関にやむを得ず施錠をしているが時間を決めて鍵を掛けない時もある。(鍵には鈴が付いている)居室から庭への出はいろいは自由である。	○	運営者及び全ての職員で、利用者にもたらず不安や閉塞感、家族や地域の人々にもたらず印象度のデメリット等を検討し前向きに取り組んでいただきたい。

宮崎県宮崎市 グループホーム希望山荘

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	防災マニュアルは作成されており、毎月、事業所だけの火災や地震、水害等を想定した訓練を行っている。地域の消防団に協力依頼はしている。	○	災害時の具体的な避難策について検討し、いざという時に確実な避難誘導ができるように訓練がなされているが、今後は日ごろより地域住民や警察署、消防署及び地域の消防団との連携を図りながら協力体制を築いてほしい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、一人ひとりの飲食量の記録がなされており食事形態も考慮され、必要な食事や水分が取れるように支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁には、月ごとに掲示物が変わられて季節感が感じ取れる。ホールにいと台所からのにおいがし、茶わんを洗う音や利用者と職員の笑い声が聞こえ、居心地の良さが感じられた。明るい共用空間は、いすやソファが置かれていて、天井も高く、圧迫感も無い。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みのものを生かし、家具や身の回りの物が置かれている。その人らしく過ごせる部屋になっている。		

※  は、重点項目。